アザシチジン療法を受ける患者様へ　　傷病名：　　西6A病棟

ID：@{Patient.ID}　　患者氏名：　@{Patient.Name}　　様　　症状：　　号室

日付	月　　日（木）	月　　日（　）
経過	1病日～4病日	5病日（退院日）
治療 スケジュール	入院後、準備ができ次第アザシチジンを投与します。  2日目以降は副作用症状の出現に注意しながら、引き続きビダーザを投与します。	5日目のアザシチジン投与後、副作用症状がなければ退院となります。
目標	予定どおり治療が終了する。	 苦痛症状なく退院できる。
検査・処置・測定	 1日2回検温し、問題なければアザシチジンを投与します。 必要時、採血を実施し血球減少の観察を行います。 	
説明・指導	ビダーザの副作用症状について説明を行いながら投与を進めていきます。	退院説明をおこないます。
食事	化学療法中、食欲がない時は食事内容は変更できるので希望があれば看護師に伝えてください。 水分や食事がとれないときは代わりの注射や点滴をします。	
生活・行動	歩行は自由です 毎日シャワー浴を行いましょう。お体が辛いときは体拭きを行います。 感染予防のため手洗い・含嗽をしっかり行いましょう。 	
その他	**【抗癌剤の副作用症状について】** **・ビダーザ（アザシチジン）** **注射部位の局所反応** →注射部位に発赤、腫脹、硬結、疼痛が出現することがあります。症状があるときは、軟膏をぬってもらい症状を軽減します。	**【その他副作用症状】** **・悪心・嘔吐** →制吐剤の投与、食事内容の変更、必要時栄養の点滴を行います。 **・血球減少** 白血球が低下すると、病原菌に対する抵抗力が低下し感染症を起こしやすくなります。 →感染予防について指導します。必要時、G-CSF製剤を投与します。また予防のため抗生剤の投与を検討します。 血小板が低下すると、鼻血やあざが多く見られます。 →必要に応じて輸血を投与します。 赤血球が低下すると、めまいやふらつきが出現します。 

注）予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくに従って変わることがあります。

岩手医科大学附属病院血液・腫瘍内科